

■研究推進委員会 2020年度 活動報告書

提出日：2021年 3月31日

名 称	公益社団法人日本造園学会風景計画研究推進委員会
委員長	氏名（所属）：伊藤弘（筑波大学芸術系世界遺産専攻）
幹 事	氏名（所属）：町田怜子（東京農業大学地域創成科学科地域環境科学部） 連絡先（e-mail アドレス）：r3machid@nodai.ac.jp
その他 構成員	氏名（所属）： 伊藤弘（筑波大学芸術系世界遺産専攻）， 松島肇（北海道大学大学院農学研究院）， 上田裕文（北海道大学メディア・コミュニケーション研究院）， 温井亨（東北公益文科大学）， 入江彰昭（東京農業大学地域環境科学部）， 小島周作（東京農業大学大学院農学研究科）， 小林昭裕（専修大学経済学部）， 高山範理（国研）森林研究・整備機構 森林総合研究所）， 高瀬唯（茨城大学農学部）， 寺田徹（東京大学大学院新領域創成科学研究科）， 古谷勝則（千葉大学大学院園芸学研究科）， 松井孝子（株式会社プレック研究所）， 山本清龍（東京大学大学院農学生命科学研究科）， 上原三知（信州大学学術研究院農学系）， 水内佑輔（東京大学大学院農学生命科学研究科）， 村上修一（滋賀県立大学環境科学部）， 渡邊貴史（長崎大学大学院水産・環境科学総合研究科）， 町田怜子（東京農業大学地域環境科学部）
今年度 活動報告 成果	<p>1. 2020年度日本造園学会全国大会ミニフォーラム開催 「風景の変化の兆し 身近な空間とそこへの関わり方の未来」をテーマに、ミニフォーラムを開催した。本フォーラムでは、風景の変化の兆しから見出せる風景づくりに係る研究議論を深めた。本フォーラムが今後の風景計画に示唆することは、共時・通時的に多くの風景・風景体験が存在し、それが蓄積され、計画の再検討・変更が絶えず求められる前提のもと、話題提供にみられた学術的知見と風景・風景体験の蓄積された記録を踏まえて、「何を（目的）」とともに「どのように（プロセス）」実現するかを重んじた計画に関わる行為を続けることの重要性ではないかと考えられた。</p> <p>【発表者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話題提供1 「遠隔自然地を身近にするサイバーフォレストのライブ音・録音とサブスクリプションサービスの考察」 斎藤馨（東京大学大学院新領域創成科学研究科） ・話題提供2 「風景とその認識の枠組み -近代からはずれるということ-」 温井 亨（東北公益文科大学公益学部） ・話題提供3 「樹木葬の風景」 上田裕文（北海道大学メディア・コミュニケーション研究院） <p>【総括】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・武田重昭（大阪府立大学大学院生命環境科学研究科） ・渡辺貴史（長崎大学大学院水産・環境科学総合研究科） <p>【企画責任者】</p>

- | | |
|--|--|
| | <ul style="list-style-type: none">・ 武田重昭（大阪府立大学大学院生命環境科学研究科）・ 渡辺貴史（長崎大学大学院水産・環境科学総合研究科）・ 伊藤弘（筑波大学芸術系世界遺産専攻）・ 水内佑輔（東京大学大学院農学生命科学研究科）・ 町田怜子（東京農業大学地域環境科学部） |
|--|--|

3. 「風景計画研究」 発刊

「風景計画研究」 第 5 号を 2021 年 3 月に発行した。